

## あなたはどんな秋に・・

主幹教諭 松井 直樹

運動会が終わり、「秋らしさ」が日一日と深まりつつあります。令和元年度の運動会では、多くの保護者の皆様にお越しいただきありがとうございました。今年は、立見席を設定してできるだけ子どもたちに近い所で応援していただくことで、子どもたちの「キラキラした輝き」を目の当たりにしていただけましたことと思います。また、皆様方のご声援が何よりも子どもたちの力になりました。

さて、秋になるとよくとりあげられるのが「〇〇の秋」という言葉。この「〇〇」にはさまざまな言葉があてられ、秋は〇〇をし易いと言われたり、活動を推奨されたりします。確かに、秋という季節は気候の面でとらえれば、夏から気温が下がることから活動しやすくなります。しかも湿気が少ないので、不快感が少なく物事により集中しやすい時期でもあります。さらに、日没も早くなり、家で過ごす時間も増えることでしょう。じっくりと物事に取り組むことに適した季節なのです。代表的な「〇〇の秋」といえば、秋の夜長にじっくりと・・・「読書の秋」、夏バテで弱った体に、そして冬に備えて健康な体をつくる・・・「食欲の秋」、1964年東京オリンピックの開会式10月10日(体育の日)もイメージとなる・・・「スポーツの秋」などがあげられます。それぞれの秋には詳細な由来があるようです。

ここで考えたいことは、じっくりと自分のめざす、自分らしい時間を過ごすための生活づくり、生活基盤づくりがあつての「〇〇の秋」なのではないでしょうか。いくら過ごしやすい気候、環境が整っていたとしても、自分の心がけ次第、生活次第(基本的な生活習慣づくり)で自分のこの秋の取り組みが有効な時間となるか否か決まってくるのです。春夏秋冬、世界中、老いも若きも、過去も未来もみな一日の時間の長さは同じです。時の流れはみな平等なのです。

これから深まる秋に菊の子の子どもたちは、「学習の秋」「運動の秋」、学校行事ではきくまつりにむかって日々を送っていくことでしょう。子どもたちの「〇〇の秋」の〇〇、じっくりと取り組む物事はみなそれぞれ違います。充実した1日の時間の使い手こそ、「〇〇」が明確になるでしょう。「ぼくはこんな〇〇の秋だった」「〇〇な秋にしたいな」「わたしは〇〇の秋っていえると思う」私は子どもたちに聞いてみたいと思います。そして御家庭では、ぜひ子どもたちが「よき時間の使い手」となって充実した秋を過ごせるように、演出していただければと思います。さあ、子どもたちはどんな秋に・・・そのようなことを楽しみにこの秋を過ごしたいです。

